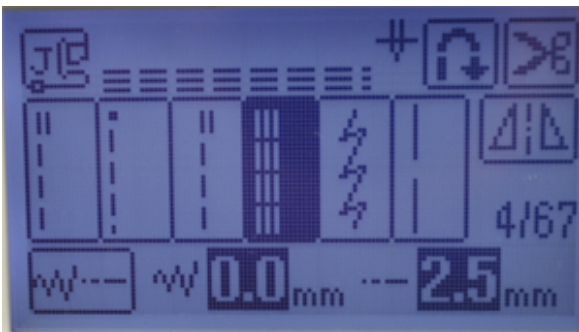


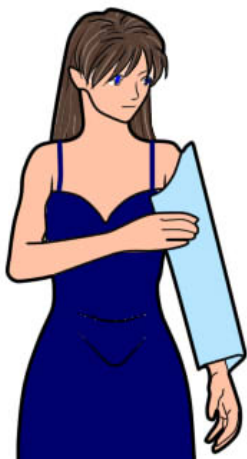
型紙のえりの複数の線は切る線によってえりくびの形を変えることができます。
 そでも赤い線で切ると半そで、下の線で切ると半そでになります



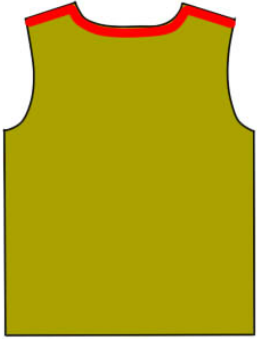

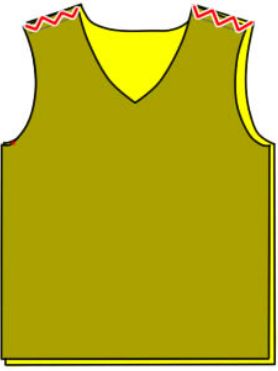
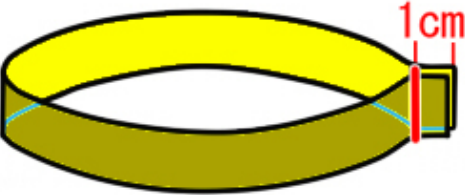
よく伸びるニットの縫い方
 普通の縫い方だと糸が切れるので [ニット用のレジロン糸](#)を購入してください
 図のような三本線の柄を選択上糸の調子を強めにして縫ってください
 これだとかなりの伸縮でも耐えます。
 あまり伸びないTシャツ生地だと右隣の雷状の伸縮縫いという機能が使えればこちらを使うといいですよ。



ニットを使う場合は、伸びる生地なので縫っているとどんどん伸びたりずれたりして長さが合わなくなったり、べろべろに伸びたりします。
 そこで細かい番手の紙やすりを帯状に切って、布と押えの間にはさむと、伸びやズレが減ります。
 ※一緒に縫わないように注意。

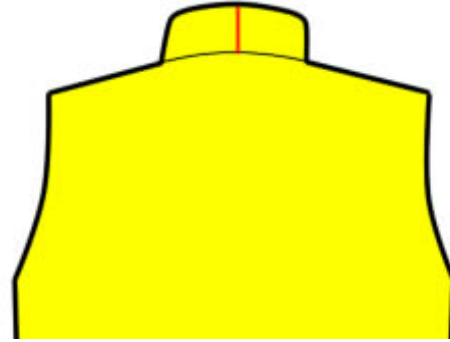


型紙を体に当てて、自分のそで丈にあったものを選んでください。
 ジャストのものが無い場合長いほうを選んでください。
 そで口の縫い代を折るときに多めに折ってください。
 綿100%のニットは水にぬれると縮みやすいです。
 ここを参考に水につけて縮ませて、乾かしてから作ってください。
[生地之地直し、水どおしについて](#)

	<p>型崩れを防ぐために、肩と後ろの襟ぐりの縫い代に接着芯を貼ってください。 伸び止めテープでもよいですし、接着芯を1cm幅に切ったものを貼ってもよい。</p>
	<p>すそとそで口にほつれ止めをしてください。</p>  <p>ニットのほつれ止めは左のように点線のジグザグを使います。</p>
	 <p>肩を縫ってください</p>
	<p>えりを半分に折って縫い代を縫ってください。</p>
	<p>えりを二つ折りにしてください。</p>

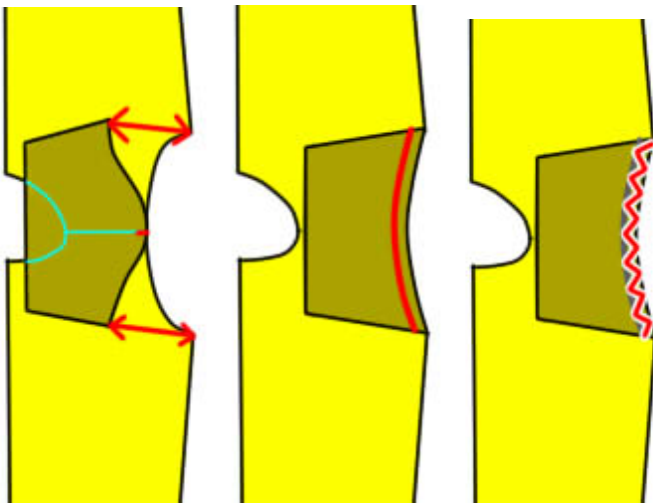


二つ折りにしたままえりの布端を身頃のえりぐりに重ねてください。



えりの縫い合わせが後ろ中心に来るようにしてください。

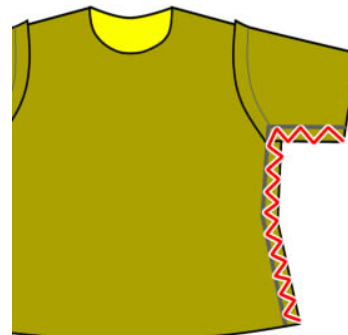
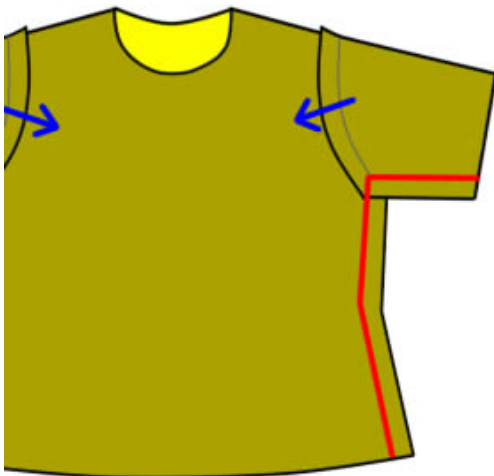
えりと身頃を合わせてほつれどめしてください。



そでを身頃と表同士が内側になるように重ねてください。

そで山と方の縫い目のところを合わせて縫ってください。

身頃とそでを一緒にほつれどめをしてください。

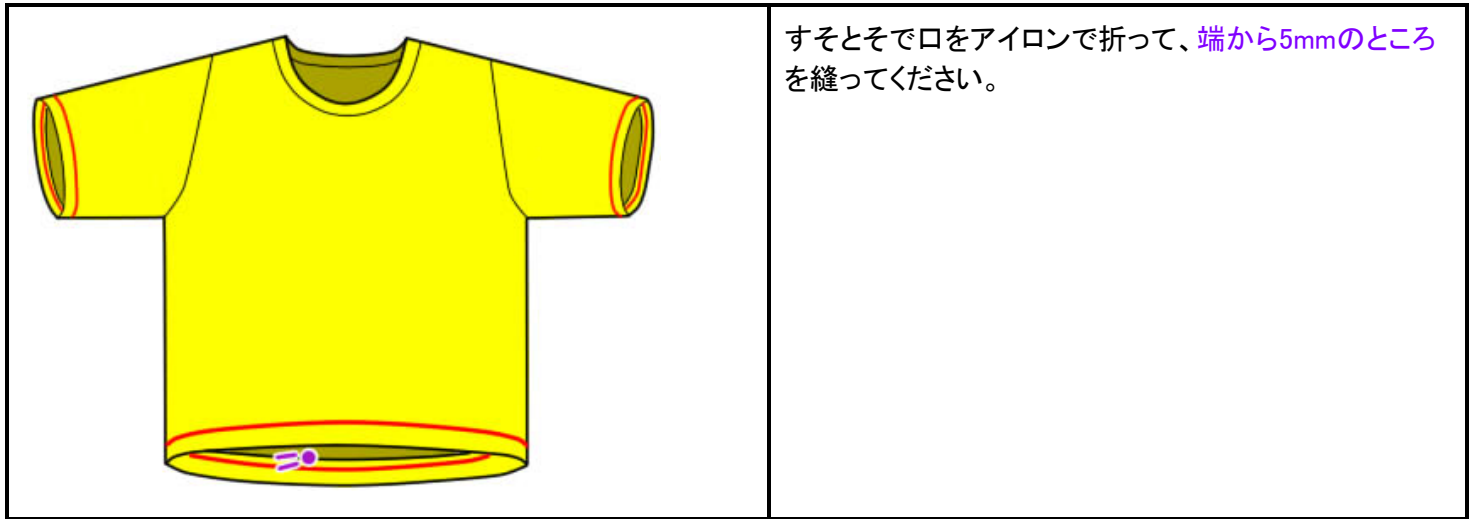


そでの縫い代をアイロン

で身頃側へ折ってください。

そでからすそに向かって縫ってください。

ほつれ止めをしてください



必要な材料

表生地、ニット糸、ニット針、接着テープ(接着芯を細く切ったものでも可 おすすめの生地 必ず伸縮のあるニット生地を使用してください。

伸びる素材の生地には必ずニット用の糸をお使い下さい。普通の糸を使うと伸縮に耐えられずカンタンに糸が切れます。

どんな生地が良いか分からない方へ

伸縮のあるニット生地を使用してください。

スムースやフライスとかかれたものをお選びください。

冬場は少し厚手を使用すると思います。

伸びやすいので縫っている最中に、生地がふよふよと波打つように伸びてしまうものもあります。

裾など伸びて波打って欲しくない場所には1cm程度に切った接着芯を切ったあとに貼っておくと型崩れせず綺麗に仕上がります

フライスのほうが伸びがいいので、初心者にはちょっと縫いにくいかも。

天竺というニットは市販のTシャツなどに使われるニットで、伸びは少ない。

切った端がくるんと丸まるので初心者にはちょっと縫いにくいかも。